



oneness

主催：大阪府立弥生文化博物館・近畿弥生の会

2021 年度 弥生時代講座

聞いてなっとく 弥生の世界

遺跡・遺物からみた弥生時代研究

8月7日(土) 「史跡安満遺跡、保存から活用へー安満遺跡公園全面開園」

鐘ヶ江 一郎〔高槻市 街にぎわい部 文化財課 副主幹〕
淀川北岸の弥生環濠集落として知られる安満遺跡の中心部が、発見から約90年を経て整備完了し、駅近の都市公園・安満遺跡公園として全面開園しました。整備のコンセプトや公園の魅力、活用の取組などを紹介します。【応募締切：7月24日(土) 必着】

10月30日(土) 「GIS空間分析から読む弥生時代の集落の立地と眺望」

宇佐 美智之 (立命館大学 文学部 地域研究学域 特任助教)
海・平野・山が一体となり複雑な地理環境をなす日本列島において、古来人々は様々な計画・工夫のもと住まいや拠点を決めました。その歴史の中でも、弥生時代はとりわけ重要な変化が生じた時代と言えます。GIS空間分析から、このことを明らかにします。【応募締切：10月16日(土) 必着】

12月11日(土) 「縄文ー弥生移行期における木材利用の変化」

村上 由美子 (京都大学総合博物館 准教授)
生業のあり方が変化した弥生時代には、樹木の利用においても大きな変化がみられます。堅くて重いアカガシ亜属の樹木を弥生人がどのように使い始めたか、工具や農具の様相を概観しながら、森と人との関わりについて考えてみましょう。【応募締切：11月27日(土) 必着】

2022年 2月5日(土) 「『もちほこばれた河内の土器』 ー生駒山西麓産土器についてー」

西浦 熙 (奈良県立橿原考古学研究所 調査部 調査課 技師)
弥生土器は、地域や時代により顔つきが様々です。今回はその中でも、胎土(土器の材料となる粘土や鉱物)や文様が特徴的な、大阪の中河内地域の「生駒山西麓産土器」に注目します。河内地域から遠く離れた地域で見つかることも多いこの土器の足跡を辿り、中河内地域と他地域との間の交流関係について考えます。【応募締切：2022年1月22日(土) 必着】

場 所： 弥生文化博物館1階ホール・サロン
時 間： いずれも 14:00 ~ 16:00
定 員： ホール70名、サロンでのモニター中継30名
申し込み方法： 往復はがきによる完全事前応募制 (電話・ファックス・メールでの受け付けはいたしません)。
・より多くの方にご参加いただけるよう、応募は各回ごと個人で受け付けます。
・応募が100名を超えた場合は抽選とします。返信はがきにて結果をお知らせいたします (応募締切後にお送りします)。
・往復はがきの往信に氏名、住所、電話番号、希望する講演会を明記の上、返信にご自分の宛名をご記入ください。もしくはご来館され、所定の用紙にご記入いただく方法もございます。この場合返信用はがきをご用意ください。
当日の注意点：
・返信はがきをお持ちください。
・当日の混雑を避けるためホール前にて午後13:00より受付を行い、整理券を配布します。開場は13:30からです。
・当日定員に余裕があった場合でも事前申し込みのない方はご参加いただけません。
・参加にあたってはマスクの持参・着用をお願いいたします

対 象： 大学学部生・一般市民向け
講 料： 無料 (ただし入館料は必要です)

卑弥呼と出会う博物館



大阪府立弥生文化博物館
Museum of Yayoi Culture

指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ

〒594-0083大阪府和泉市池上町4-8-27 TEL.0725-46-2162

<http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>

考古学最前線に
立つ講師陣が
じっくり解説い
たします。

ACCESS

JR 阪和線「信太山」駅下車西へ約 600m
南海本線「松ノ浜」駅下車東へ約 1,500m

【大阪方面からお越しの場合】
JR天王寺駅から和歌山方面行(阪和線)快速電車にご乗車になり、鳳(※)駅で普通電車にお乗換えください。一部には、鳳駅まで快速、その後各駅にとまる「区間快速」もございます(くわしくは時刻表をご確認ください)。
大阪駅からお越しの場合は、「関空・紀州路快速」をご利用になると便利です。
鳳から3駅目が信太山(北の河内)駅です。

国道 26 号「池上町」交差点南西角
P 普通車 72 台 (無料)

